

寿宝寺：千手観音立像

寿宝寺の本尊は、平安時代（794－1185）後期に造られた一本造りの珍しい仏像です。日本で実際に千本の手を持つ「千手観音像」の三体のうちの一体になります。中央の3つの対の手に加え、左右20の手が体の脇に彫られ、それぞれが月、太陽、矢、弓、鏡、雲、骨などをもち、その前にまた他の手が「扇状」に配されています。塗りは経年とともに薄くなっていますが、全ての掌に眼が描かれ、今も残っているものもあります。これらの「千本」手と「千」眼が観音の慈悲と知覚をもって、広く望みを叶えてくれることを表しています。観音は多くの眼で苦しみを見つけ、多くの手でそれを和らげてくれます。寿宝寺の観音像は、像高180cmあり、端正典雅な像です。目、眉、髭、口に塗られた染料のために、光の加減によって、柔らかくまた厳格に、女性的でありまた男性的にと変化する表情を見せてくれます。